

# ライフ

mail:bunka1@ma.kitanippon.co.jp

獣医の

カルテ



73



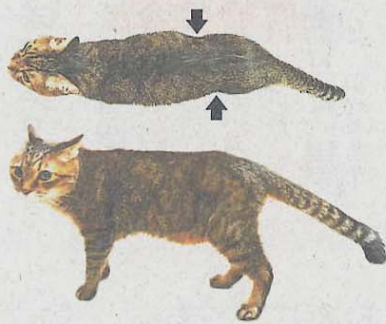
小池 仁彦

こいけ動物病院長  
(高岡市出来田)

ぼつちやりしている動物って、かわいらしいですよ。ウォンバットとか。しかしながら獣医師をしていると、時々、かわいいよりも体調を心配したくなるようなぼつちやりさんにお会いすることがあります。  
肥満だけでは、元気で食欲もあるのに、なかなか問題視されにくいようです。しかし、肥満が足かせとなる病気として、小型犬では心臓病や気管虚脱、大型犬では関節疾患などが知られています。また猫では、ぼつちや炎症や糖尿病のリスクを高めることが報告されています。

## 肥満と減量

### こまめに体型チェック



無理のない減量により腰にくびれが見え始めた院内のシニア猫

想的なんでしょうか。ここで皆さまにご紹介するのが、BCS(ボディ・コンディション・スコア)です。体型を5段階に分けて評価する方法で、犬猫ともに用いることができます(9段階の方法もありますが今回は割愛します)。理想は3で、触れた時に肋骨の凹凸をわずかな脂肪を介して容易に感じられる、上から見下ろした時に腰に適度なくびれがある、というのがポイントです。太りすぎると5に近付き、痩せすぎると1に近付きすぎます。

早速、かわいいご家族をなでてみてください。脂肪が邪魔して肋骨になかなか触れられない、腰のくびれがない、おなか張り垂れ下がっている、というBCS5の方は危険信号です。BCSの利点の一つに、普段からこまめに体型チェックができることが挙げられます。今日から、スキンシップの一部に取り入れてみましょう。

食事内容を変更した方が上手に痩せられるかもしれません。ご飯を一気に食べない猫ちゃんは、一日分をあらかじめカップなどに分けておき、そこから少しずつ与えていくとよいでしょう。体重の増加が止まらない子でよく耳にするのが、ご家族の中に際限なく食べ物を与えてしまう方がいるケースです。この場合、かわいい家族の一員のために本当にすべきことは何なのか、ご家族の間でよく話し合う必要があります。

ただし、急なダイエットは禁物です。身体への負担が大きいです。特に猫では、肝リピドーシスという命に関わる病態を引き起こす恐れがあるため禁忌とも言えます。また、食事を急に減らすと、おねだりの猛襲に遭うかもしれません。

最後に、痩せない原因が病気にある可能性もあるので、体型に関しても定期的にかかりつけの先生に相談することをお勧めします。